

一般社団法人
兵庫県病院協会

会報

● 発行 ●
一般社団法人兵庫県病院協会
〒651-0086
神戸市中央区磯上通
6丁目1番11号
兵庫県医師会館7F
TEL (078) 251-3030
FAX (078) 251-3011
会報編集委員会
印刷 株式会社 七旺社



目次

— 巻頭言 —

「医師の働き方改革」への取り組み

(一社) 兵庫県病院協会副会長

国立大学法人 神戸大学医学部附属病院

病院長 眞庭 謙昌 3

— 随筆 —

地球沸騰化と男性用日傘

(一社) 兵庫県病院協会理事

兵庫県立こども病院

病院長 飯島 一誠 4

まだ藤井聡太は止まらない — 医療DXに寄せて —

(一社) 兵庫県病院協会理事

兵庫県立丹波医療センター

病院長 西崎 朗 5

＝ 事務局短信 ＝

令和6年度近畿病院団体連合会第1回委員会 7

令和6年度病院管理職員等研修会 開催のお知らせ 8

＝ 会員病院紹介 ＝

医療法人双葉会 江井島病院

病院長 藤原 仁志 9

＝ 編集後記 ＝

(一社) 兵庫県病院協会理事・会報編集委員

西脇市病院事業管理者・西脇市立西脇病院

病院長 岩井 正秀 12



〈表紙の写真〉

砥峰高原のススキ (神河町)

砥峰高原(とのみねこうげん)は関西でも有数のススキの群生地として知られています。約90ヘクタールにもおよぶ一大パノラマが広がります。ススキの時期でなくても雄大な景色を満喫できますが秋になると目の前に黄金色のススキが風に揺れるさまは圧巻です。その美しさから多くの観光客を集めています。標高千メートル弱のところ positioning しているのも、夏はふもとよりも涼しく感じられるかもしれません。高原にはハイキングコースも整備されています。

少し登ると、起伏の少ない高原状の地形が見られます。これは周氷河地形と呼ばれるもので、かつて水分の凍結、融解が繰り返されたため、山頂部や突出部の岩石が破碎され、凹部は崩落した岩石で埋まったためにできた地形です。他にも砂鉄を採掘したためにできた人工的な地形もあり、自然と人工との融合を垣間見ることが出来ます。



巻頭言

「医師の働き方改革」への取り組み



(一社)
兵庫県病院協会 副会長
国立大学法人
神戸大学医学部附属病院
病院長 眞庭 謙昌

4月から「医師の働き方改革」が始まり、当院では特定機能病院として「高度な医療の提供」、「医療人材の養成」、「先進医療の研究・開発」を維持していくとともに、地域医療体制における役割を守っていくための取り組みを進めています。

「医師の働き方改革」がスタートした4月、当院の全医師の時間外勤務時間は、前年同月と比べて3,000時間余り増加しました。これはいわゆる「業務と自己研鑽」の線引きについての意識が高まった結果とも考えます。また、Dr. JOYを用いた勤怠管理についてもスタートは切れたものの、登録された勤務予定時間、ビーコンによる在院記録、そして実際の勤務実態が乖離している事例が散見されており、整合性をもった勤怠管理の徹底も課題になっている状況です。そもそも医師は裁量労働的な意識が強かった面もあり、まずはそうした意識改革から取り組まなければならないと考えています。さらに、当院は医師を輩出している施設として、自院だけでなく、B、C水準を取得している県下の病院の働き方改革推進のサポート体制の構築を進めています。まずは、院内に「地域医療調査室」を設置し、対象の病院について診療科ごとに医師の追加派遣の状況を把握しています。今後は、これらの病院と働き方改革推進のための会議体を設置し、B、C水準解消に向けての取り組みを議論、共有することによって、人材の確保と適切な派遣体制を構築していくための要の役割を果たしてまいります。

「医師の働き方改革」ともない医師の時間外・休日労働が規制されたことを受け、本年2月に文部科学省から「大学病院改革ガイドライン」が示されました。このガイドラインによりますと、大学病院においては、「医師の働き方改革」の推進と教育・研究・診療機能の維持の両立を図るため、必要な運営体制を整備し、将来にわたって持続可能な経営基盤の確立に向けて取り組むことが求められています。そして、地域医療確保暫定特例水準の解消が見込まれる2035年度末に向けて、全ての国公私立大学病院に対して、2029年度までの期間（6年間）に取り組む内容を、「大学病院改革プラン」として策定することが要請されました。

本院が2024年6月30日に策定した大学病院改革プランは、「医師の働き方改革、最先端医療の推進、高度医療人材の養成、地域医療機関等との連携強化、医療DXを活用した業務の効率化、持続可能な病院経営、施設・設備の戦略的整備等を強力に推進」を掲げ、そのうえで、4つの改革の柱で構成されています。まず、「運営改革」では高度な臨床研究と最先端医療の提供を両立するため、病院長のマネジメント機能の高度化を目指しています。「教育・研究改革」では、高度医療人材養成機能としての臨床教育の質の向上と臨床研究中核病院としての新たな医薬品・医療機器等の開発を行います。「診療改革」においては、大学病院としての最先端医療の提供及び兵庫県内の医療の最後の砦として機能し続けるための診療体制の再構築を進めてまいります。最後の「経営改革」では、中長期の収支計画に基づく財務ガバナンス機能の強化と、医療DXを活用した経営改善活動の継続的な実践的取り組みを盛り込んでいます。上記4つの改革が相互に作用しながら、教育・研究活動の活性化、診療機能の向上と適正な利益の確保、これによる人材・設備投資といった好循環を生み出し、当院の地域医療における役割を果たしていきたいと考えています。

随 筆

地球沸騰化と男性用日傘



(一社) 兵庫県病院協会 理事
兵庫県立こども病院
病院長 飯島 一誠

運動不足とストレス解消を目的に、土日や休日にはできる限りウォーキングすることを心がけています。心身ともに健康を維持するためには、こうした時間を確保することが重要だと思っています。

私は、2002年に神戸大学小児科から国立成育医療センター（現・国立成育医療研究センター）に異動しましたが、当時はセンター敷地内の官舎に住んでおり、通勤時間は1～2分で、この超短時間の通勤は夢のようでしたが、超運動不足という現実がすぐに私にのしかかってきました。そこで、国立成育医療センターに隣接する砦公園に3周すると5kmというジョギングコースがあったこともあり、2003年からジョギングを始め、1年後にはマラソンに挑戦するまでになりました。ただ、2008年にふたたび神戸大学小児科に戻り、2011年に主任教授となってからは、忙しさのあまりマラソンをあきらめざるを得なくなりました。しかし、有酸素運動をやめるつもりはなく、忙しい中でもできるだけ時間を見つけて軽くジョギングをしていましたが、2016年ごろから徐々に異変が現れ始め、長時間立ち続けると両足にしびれを感じ、急性腰痛症（いわゆるぎっくり腰）を繰り返すようになり、2018年にはついに腰椎分離すべり症と診断されました。中・高・大学を通じて、腰を激しくひねる軟式テニスが続けていたことが主要な原因ではないかと自己診断していますが、この病名を聞いたときは、「まさか自分が！」と驚きました。しかし、狭くなった椎間孔に神経根が圧迫されて

いる非常にショッキングな自分のMRI画像を見て、ジョギングを断念しウォーキングに切り替えることにしたのです。

私は、2021年に兵庫県立こども病院に異動し、病院経営という新たなストレスに直面することになり、そのストレスは年々増えています。2024年度の診療報酬改定による増額分の大半はベースアップ評価料として算定されていますが、それでも当院職員のベースアップに伴う人件費増を補える額には及びません。また、医師の働き方改革も求められる中、小児救命救急センターである当院では宿日直許可の取得が難しく、複数の診療科ではやむを得ずB水準の申請を行っています。このため、さらなる人件費の増加が予想され、2024年度末の決算は非常に厳しい結果となることが容易に想像できます。

そういう意味でもウォーキングによるストレス解消の重要性はさらに増してきたのですが、2023年にアントニオ・グテーレス国連事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と宣言したように、災害級ともいえるここ数年の酷暑にどう対応してウォーキングを続けるか考えざるを得なくなりました。実際、神戸でも今年の7月半ば以降、連日のように熱中症警戒アラートが発令され、“外出を控えて運動は中止を”という勧告が出ています。夏場だけジムに通ってランニングマシンでウォーキングすることも考えましたが、新型コロナの新変異株「KP.3」が大流行する中では躊躇せざるを得ず、他に何か良い手はないものかと思っていたところ、ある調査で、“男性の2人に1人が、熱中症対策として「日傘を利用したい」と回答し、約2割の男性が日傘を週に一回以上使用している”との記事を読み、“これだ！”と思い、早々に購入した男性用日傘をさしながらウォーキングしたところ、ピリピリと肌をさすような日差しを防ぐ効果は絶大で、体感温度もかなり低くなったのではないかと感じました。

神戸大学名誉教授の市橋正光先生は20年以上前から、紫外線対策として男性も日傘を使うべきだと提言され、ご自分でも実践されていましたが、

当時の私は、「男が日傘なんてー」という感じで、自分が日傘を使うことなど想像もしなかったのですが、紫外線対策に加え熱中症対策として、その言葉が今や現実のものとなっているのです。時代が追いついたのか、私が追い越されたのかはわかりませんが、これからは男性用日傘が私のウォーキングの新たなパートナーになることは間違いありません。

まだ藤井聡太は止まらない — 医療 DX に寄せて —



(一社) 兵庫県病院協会 理事
兵庫県立丹波医療センター
病院長 西崎 朗

2023年11月10日藤井聡太が八冠になり将棋界全冠を制覇した。八冠制覇は史上初の快挙である。その後、名人・棋聖を防衛し、史上最年少の名人防衛ならびに永世棋聖となった。しかし、2024年6月20日叡王のタイトルを伊藤匠新叡王に奪取され、八冠から陥落している。全冠制覇期間は257日であった。羽生七冠（当時の全冠）は167日であり、七冠以上の全冠制覇日数は大幅に更新された。2024年8月28日には王位を防衛し永世王位となった。永世二冠の最年少記録を更新している。藤井七冠はAIを用いて学習していることで有名だ。伊藤叡王も同世代で、AIで学んでいるという。ヒトとAIの関りが頭脳ゲームを席卷している。同様のことが、医療においても起こるのか？医療にはどのようにAIやDXが関わってくるのか？医療の未来を考える上でも興味深い。

今から思えば、オーダーリングと電子カルテの導入とは、個人的には最も大きいDXであった。医師が患者・家族と相談し自身の手で、検査予約や再診の予約日と時間帯をとれるようになった。電子カルテは、デスクに居ながらにして同時に多数

の患者情報を見ることができる。紙カルテの時代、誰かがカルテを使用している時には、患者情報をとることができず、データの抽出や比較に時間がかかり、臨床推論・検査計画やオーダー・患者家族への説明と同意に必要以上に時間がかかることも多々あった。

1995年築地の国立がんセンター（彼らは「築地」と地名で呼ぶ）に国内留学した時、ヘリコバクター・ピロリ（以下ピロリ菌）による胃発ガンの可能性が議論され、ピロリ菌感染の診断と除菌判定が注目されていた。当時各社から発売されたピロリ抗体価の感度と除菌成功後の抗体価の半減期が問題となっていた。そこで思いついたのが、胃全摘患者の血清から経時的に判定することであった。気鋭の胃外科の先生がたから胃全摘患者のリストをいただいた。カルテ架に行き、膨大な紙カルテを借り出し、診療データを確認、採血日をリスト化した。驚くべきことに、築地には開院以来のカルテと採血血清はがん研究の宝であるとの考えに基づき、すべて保管されていた。しかし、カルテがなかなか見つからない。築地は現在国立がん研究センター中央病院の名称となっているように、常に誰かがカルテを借り出して数多くの観察研究をしていたのであった。このため時間はかかったがなんとか、リスト化はできた。次に行ったのは、採血日の血清を冷凍庫に行き一つ一つ集めることであった。軍手をし、防寒コートを着て探す。採血日ごとにまとめられた膨大な量の1cm長程度のチップの入った巨大なビニール袋の中から、患者名と患者IDを確認して、並べていく。長時間かかると、体は凍え手はかじかむ。昼間の研修の後、夜終電時刻ギリギリまで探し続けた。これらの血清から得た、除菌成功後の抗ピロリ抗体の半減期は約半年という結果は、厚労省の研究班で発表された。ささやかな臨床研究であるが、知恵を絞ってアイデアを発想すること・臨床データを集めること・忍耐強くやり抜くことなどを学んだ。またその時共に寒さに耐えた仲間たちとは、胃MALTリンパ腫の1次治療としての除菌療法の確立や、今や世界に広がりつつあるESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の開発と普及を行った。そ

の多くが、今や教授となり院長となっている。貴重な経験と人材ネットワークである。

近年も、多忙の中いくつかの観察研究を行い、毎年学会発表を行っている。電子カルテを活用すれば、瞬時に多数の患者情報を得ることができる。アイデアが必要であるが、臨床研究、特に観察研究でのデータ採取は極めて容易になった。かつての10分の1の労力で行うことができるようになったのではと実感している。

さて、病院DXである。AI問診・自動運搬機器など既に導入されている施設もあるかと思う。画像診断に関するAIは長足の進歩をしていると聞き、最近、胃がん診断の内視鏡AIを経験する機会を得た。確かに疲れを知らない。繰り返し同じ

精度で、診断を返してくる。診断能は、専門医レベルということだ。しかし、使ってみると、内視鏡画面を何度もフリーズしては判定を待ち続ける数秒が待てない。感覚的にリアルタイムでない。見落しを減らすためと思うが、擬陽性が多い。なんでもがん疑いとしている感覚である（表記上はconsider biopsy）。課題が目につく。いわゆる人馬一体で、AIは拾い上げ、医師が最終診断するのであるが…。

今後、医療AIも、将棋AIが進化しヒト（プロ棋士すら）を凌駕したようになっていくのであろう。その時どんな景色が見えるのか。新たな医療がどのように構築されるのか。そのことを見据えながら、日々の診療を進めている昨今である。



＝事務局短信＝

令和6年度近畿病院団体連合会第1回委員会

9月12日、大阪市内において近畿病院団体連合会第1回委員会が開催されました。滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の10団体が参加し、当協会からは、大村会長、太城副会長、平田副会長が出席しました。

本年度の当番団体である大阪府私立病院協会の司会進行で、同協会加納繁照会長の開会挨拶に続いて議事に入り、本年度の役員選出の後、診療報酬改定の影響について意見交換が行われました。

まず加納会長から、「現在の病院経営は、物価高騰、賃金上昇、コロナ禍後の経営悪化、人材不足と非常に厳しい状況に置かれている。(独)福祉医療機構(WAM)によると、2023年の一般病院における経営状況は、速報値で医業利益率-2.0%、経常利益率-1.0%であった。今回の改定により医業利益率、経常利益率ともさらに下がり、実質的にマイナス改定であったことを裏付ける別の調査結果も近く公表されると聞いている。各府県の病院の状況をお聞かせ願いたい」との趣旨説明がありました。

当協会大村会長は、協会役員の所属する大学病院、地域中核病院等を中心に経営状況を聴取した結果をもとに、「職員給与については、ベースアップ評価料対象外職種についても同等の計算式を用いるなどして支給しているが、食費や光熱費、医療DXへの支出と併せて医療機関の持ち出しによる負担が大きい。また、重症度、医療・看護必要度の見直しについては、大規模な急性期病院では基準を維持できる見込みであるが、ハイケアユニット(HCU)について『心電図モニターの管理』『輸液ポンプの管理』が削除されたため、特にCCUに入る患者の選定などに労力を割かれている。さらに、A項目で救急搬送後の入院が5日間から2日間に短縮されたことについて、高齢者の割合が高く早期の退院、転院が容易ではない新型コロナ患者の受け入れを積極的に行うと基準の維持が困難との意見もあった。このほか、抗悪性腫

瘍剤等高額な薬剤に係る薬価マイナス改定の影響など、診療報酬の増額以上に物価高騰、人件費増により収支が悪化する。特に高齢化、人口減少、医師等人材不足が著しい地域の中核病院ではその傾向が強い」と報告しました。



さらに、兵庫県民間病院協会・西昂会長、高橋玲比古副会長から「急性期・一般病床からケアミックスや回復期リハビリテーション病棟への移行が進み、救急医療体制への影響が大きい」と懸念が示されました。また同協会・森光樹副会長は、「高齢化が進む郡部においては医師や看護師の確保のための支出が大きく赤字で苦しんでいるところが多い。今回の改定にはそういう地域の医療への対応が見られない」と指摘されました。

このほか、奈良県病院協会等から、看護師の養成について3年課程の看護専門学校では定員割れの状況となっていることが報告され、兵庫県民間病院協会・橋本創副会長も「社会人入学が減少した。病院だけでなく診療所でも確保に苦慮しており、地域医療の維持への影響が大きい」と指摘するなど、看護師養成所の運営課題がそれぞれの団体から発言されました。

議事終了後、(公財)大阪観光局理事長・溝畑宏氏から「2025年大阪万博の楽しみ方」と題して、特別講演が行われました。

お知らせ 一般社団法人兵庫県病院協会 令和6年度病院管理職員等研修会

旭中央病院におけるIT化の現状と課題

旭中央病院は地域唯一の高度急性期病院であり、積極的にIT化を推進してきました。病院主体のIT化として、医師・看護師への院内スマートフォンの配付、電子カルテ機能を備えたタブレット端末の導入などを行っています。また国が進める医療DXに対応して、マイナ保険証や電子処方箋の推進などに力を入れています。そしてIT化の課題として、コスト・セキュリティ・IT人材を取り上げます。

- ・日 時 令和6年11月12日(火) 14時00分～15時30分(受付13時30分～)
- ・場 所 兵庫県医師会館2階 大会議室(神戸市中央区磯上通6-1-11)
- ・講 師 総合病院国保旭中央病院・病院長 野村 幸博 先生
- ・申し込み 兵庫県病院協会のホームページから「参加申込書」をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。 ※令和6年10月31日(木) 〆切
- ・参加費 お1人3,000円(当日現金にて承ります)
※会員病院以外の参加は、お1人4,000円で承ります。
- ・その他 会場へは、公共交通機関をご利用ください。

(主催)

一般社団法人 兵庫県病院協会

〒651-0086

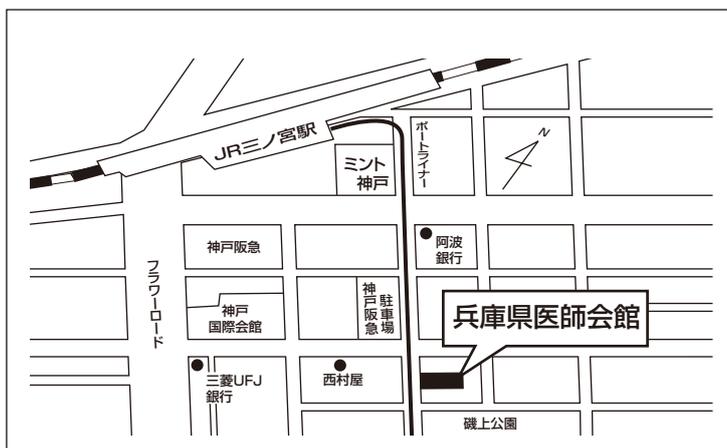
神戸市中央区磯上通6-1-11

兵庫県医師会館7階

TEL: 078-251-3030

FAX: 078-251-3011

【会場付近見取り図】



JR・阪急・阪神・地下鉄『三宮駅』から南東へ
ポータライナー沿いに徒歩約10分です。



会員病院紹介

江井島病院



医療法人双葉会
病院長 藤原 仁志



はじめに

旧西江井島病院の前身は、1979年12月に西江井ヶ島診療所（入院病床19床）の有床診療所として開設されたところから始まります。その後は病院化・医療法人化・増築・増床、介護保険サービス等の開設を経て、2006年に前病院長より法人継承しました。

旧病院は本館部分の設備等の老朽化が著しく、患者サービスの改善・向上とともに、昨今危惧されている巨大災害にも備えるべく新築移転を決定しました。2024年2月、旧病院から約400m東の現在の地に江井島病院と名称変更し、無事に移転しました。

「ひとり一人を大切に。人と人とのつながりを大切に。」を病院理念とし、地域に根差した病院として急性期～回復期医療、訪問看護・訪問リハビリテーション・デイサービスなどの在宅支援を提供しております。

急性期治療

地域に密着した病院、断らない病院として、救急患者の受け入れ、検査や手術、基幹病院や介護

施設との連携を行っております。外来では、内科、循環器内科、脳神経内科、心療内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、皮膚科、小児科、泌尿器科の診療を行っております。一般診療に加え、新型コロナウイルス感染症の流行時期には、発熱外来、PCR検査、必要に応じて入院の受け入れも積極的に行ってきました。

入院病床は120床で、急性期一般病床31床と地域包括ケア病床29床では、発熱や骨折、肺炎、心不全などの入院診療を行っております。大腿骨頸部骨折などの手術加療や消化器疾患の外科手術、胃瘻造設なども対応しております。患者の高齢化に伴い、嚥下障害に対する検査・リハビリテーションや認知症へのケアに力を入れているのも当院の特色であります。

リハビリテーション

当院はリハビリテーションを診療の柱のひとつとしており、急性期から回復期、生活期まで、様々なステージの患者にリハビリテーションを提供しております。リハビリテーション科専門医が4名勤務しており、適切な診断、予後予測、専門的な検査や治療を提供しております。

一般病棟では骨折や肺炎、心不全などで入院した患者に、早期からリハビリテーションを行うことで、回復をサポートしております。嚥下障害の患者に対しては、嚥下造影検査で評価し、言語聴覚士による摂食機能療法で、嚥下機能の改善、経口摂取をサポートしております。また、痙縮に対するボツリヌス治療など、専門的な治療も行っております。

地域包括ケア病床では、治療と並行してリハビリテーションの必要な患者、急性期治療後もリハビリテーションの継続が必要な患者に対して、毎日2単位以上のリハビリテーションを提供し、在宅への復帰をサポートしております。

回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中や骨折、脊髄損傷、下肢切断、誤嚥性肺炎や心不全

後の廃用症候群、外科治療後の廃用症候群、人工関節置換術後など、幅広い疾患の患者を受け入れております。気管切開、胃瘻、中心静脈栄養、重度の片麻痺、頸髄損傷による四肢麻痺などの患者も積極的に受け入れております。義肢・装具療法にも力を入れており、リハビリ室には長下肢装具や短下肢装具、膝装具、肩装具など、多種多様な装具を備えております。週3日専門医による装具診察の時間を設け、装具の検討、作製、調整などを行っております。

医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護士、栄養士、歯科衛生士、薬剤師、社会福祉士など、多職種によるチーム医療で患者の回復と社会復帰をサポートしております。

外来リハビリテーションや訪問リハビリテーション、デイサービスでのリハビリテーションなども行っており、当院退院後の患者や近隣にお住まいの患者に、リハビリテーションを提供できる環境を整えております。

小児科外来・病児保育

当院では2014年から小児科外来を開設し、急性期・回復期医療だけでなく、小さな子供たちへの医療にも対応できるように務めております。新生児から高校生まで一般的な小児科疾患の診断と治療、予防接種、乳児健診を行っております。木曜日午後が休診のクリニックが多いことを考え、当院では木曜午後の診察を行っております。

小児病床を有していない為、入院加療が必要な場合は、明石医療センター、明石市立市民病院ならびに加古川中央市民病院のご協力をいただきながら、救急車の受け入れと一次的な診断と治療、二次病院への搬送判断も行っております。

また、明石市の病児保育業務委託開始当初より「病児保育室 ふたば」を開設しております。保護者の子育てと仕事の両立を支援する為に、発熱などで一般保育園が預かれない子供たちを、看護師常駐でお預かりし看病しております。おかげさまでほぼ毎日満床の状況です。



外来待合



病棟スタッフステーション



オペ室



特別室

少子高齢化一直線の日本において、明石市の子育て支援政策により市内の子供たちが増えている現状は大変喜ばしく、今後も少しでも子供たちが健康に笑顔で過ごせるよう務めます。

おわりに

新病院ではリハビリテーション室及び機器・設備の充実、感染症対策として換気能力の増強、オペ室の高度化など地域に必要とされる機能を整備することができました。

今後は、病院周辺に敷地を拡張し駐車場を拡げ、院内保育園の移転など子育て世代の職員にもさらに働きやすい職場として充実させ、より一層地域医療に貢献したいと考えております。

病院概要

法人名：医療法人 双葉会
 名称：江井島病院
 所在地：兵庫県明石市大久保町西島434番地の5
 管理者：病院長 藤原 仁志
 床数：120床

一般病棟60床
 (急性期一般31・地域包括ケア病床29)
 回復期リハビリテーション病棟60床

診療科目：内科 脳神経外科 脳神経内科
 整形外科 リハビリテーション科
 泌尿器科 小児科 皮膚科
 心療内科 循環器内科 外科 歯科

職員数：医師・歯科医師 39人
 看護師 82人
 薬剤師・医療技術職 128人
 事務職 33人

主な指定：兵庫県救急告示医療機関、
 明石市二次救急輪番制当番病院

病院沿革

昭和54年12月 西江井ヶ島診療所 開設 (19床)
 昭和55年11月 西江井島病院 開設 (50床)
 昭和58年 7月 50床から68床へ増床
 昭和58年12月 医療法人双葉会西江井島病院開設 (69床)

昭和62年 5月 増築 (69床から104床へ増床)
 平成10年 9月 病棟ケアミックス 一般52床、療養52床
 平成16年 9月 増築 (一般44床、療養60床)、人工透析室開設
 平成19年 5月 回復期リハビリテーション病棟届
 平成29年 3月 人工透析室廃止
 平成29年 6月 104床から118床へ増床
 令和 3年 5月 118床から120床へ増床
 令和 6年 2月 江井島病院 新築移転

関連施設

ふたば訪問診療クリニック
 元気あっぷ江井島デイサービスセンター
 元気あっぷ大久保デイサービスセンター
 オリーブ江井島居宅介護支援事業所
 オリーブ大久保訪問看護ステーション
 オリーブはりま訪問看護ステーション
 ふたば訪問看護ステーション垂水
 ふたば保育園
 病児保育室ふたば

関連法人

医療法人社団 栄宏会
 ・土井リハビリテーション病院
 ・栄宏会小野病院
 ・オリーブ皮フ科
 ・元気あっぷ加西デイサービスセンター
 ・元気あっぷ西脇デイサービスセンター
 ・オリーブ小野訪問看護ステーション
 ・オリーブ小野居宅介護支援事業所
 ・オリーブ加西居宅介護支援事業所
 ・オリーブ西脇居宅介護支援事業所
 ・放課後等デイサービス りあんず
 ・病児保育室 りあんず
 社会福祉法人 栄宏福祉会
 ・特別養護老人ホーム ぬく森
 ・特別養護老人ホーム なごみの杜
 ・グループホーム こもれび
 ・デイサービスセンター こもれび
 ・ワークセンター すみれ (障害者就労支援)

・りあんず保育園

特定非営利活動法人 あい・きゅーびっく（障害者就労支援事業）

- ・ワークらんど加西
- ・できそらんど加西
- ・ライフらんど加西
- ・ねっこらんど加西

特定非営利活動法人 かがやき（障害者就労支援事業）

- ・ステップあっぷ西江井島
- ・ステップあっぷ二見

編集後記

記録的な猛暑が続いた長い夏もようやく去り、涼やかな空気に包まれる季節となりました。ここに令和6年の会報秋季号をお届けいたします。

まず、巻頭言では眞庭副会長が、大学病院における「医師の働き方改革」の影響と、様々な取り組みについて述べられています。病院の規模の大小に関わらず、働き方改革の及ぼす影響の大きさを知ることができました。

随筆では、飯島理事が異常気象と自己管理について語られました。スポーツマンらしい先生の文章で、楽しく読ませていただきました。また西崎理事は、藤井聡太とAIの関係を見据えながら、病院DXに関する思いを述べられていました。同じ世代の者としては、かつてのアナログ的な労苦によって鍛えられた

部分もあるのではないかというご意見には、大きく頷くところであります。

病院紹介では、江井島病院が、地域に密着した広い範囲にわたる医療を受け持つ病院であることが紹介されています。

ご多忙の中、会報の発行にご協力いただきました、執筆の先生方、編集事務の方々に心より感謝いたします。

（一社）兵庫県病院協会理事・会報編集委員
岩井 正秀
西脇市病院事業管理者・西脇市立西脇病院
病院長 記

